

「流水型ダム」は観光資源にはならない – 「最上小国川ダム」の例–

最上小国川の清流を守る会

「流水型ダム」は通常は湛水しないことから、水温低下や水質悪化が起こらず「環境に優しい」と言われ、県や町の幹部は観光資源としても期待している。

しかし、「最上小国川ダム」では未だにダム天端は立ち入り禁止となっており、一般の方が見学できるよう整備されたのは下流側だけで、上流側は未整備で資材置き場になっている。水を湛えないコンクリートの塊（壁）を見て感慨が湧く人がはたしているだろうか？

「流水型ダム」は観光資源としては、あまりにもお粗末というのが実態である。



見学者用の駐車場。正面の建物が管理棟



天端は立ち入り禁止のまま



下流側の柵からは常用洪水吐は見えない

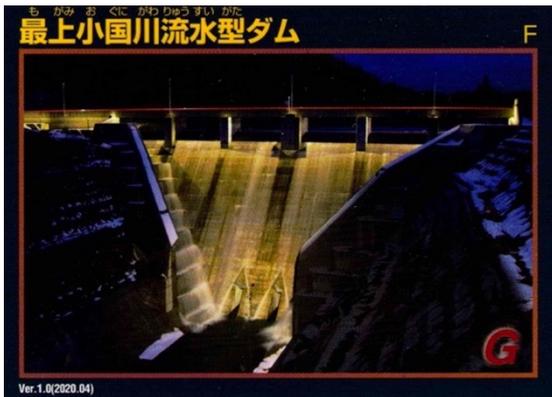


上流側は舗装されずに資材置き場



洪水などで、常用洪水吐に堆積し掘削・撤去された流木と土砂

ダムカードの欺瞞



最上小国川ダムのダムカードには、試験湛水中に撮影された写真が掲載されている。

ダムは満水となり、非常用洪水吐ダム上端から越水している状態の「美しいダム」の映像が使われている。しかし、これは「流水型ダム」の本来の姿ではない。このような映像を平然とダムカードに使うセンスが疑われる。



通常時のダム下流側

水を湛えることのない「流水型ダム」はコンクリートの塊にしか見えない。洪水後は右の写真のように流木がたまって、「美しくないダム」に変わる。



洪水後のダム上流側には流木と土砂

訪問した人はこのダムのどこを見ればよいのだろうか？

ダム建設前のダムサイト→

この清流を壊して、ダムは建設された。

